

内覧会参加者各位

夜の遊園地がメディアアートの美術館に!

TOKIWAファンタジア2021



宇部市 / TOKIWAファンタジア推進協議会は、『TOKIWAファンタジア2021』を2021年11月28日(日)～2022年1月16日(日)まで、ときわ遊園地(山口県宇部市)を開催いたします。

『TOKIWAファンタジア2021』は、市民参加型のイルミネーションイベントです。昨年より、全国で活躍するアーティストも参加。ダイナミックな仕掛けのレーザーアニメーション、美しく光輝くイルミネーション、プログラミングを駆使したインタラクティブな作品など、今年も光と音のアートが夜の遊園地を彩ります。

TOKIWAファンタジア2021 開催概要

会期：2021年11月28日(日)～2022年1月16日(日)

時間：18:00～21:30 (17:30開場)

会場：ときわ遊園地(山口県宇部市則貞3丁目4番1号)

料金：当日券：700円／パスポート(会期中何度でも入場可能)：1,000円

高校生以下及び身体障害者手帳などをお持ちの方とその付添いの方1名無料

主催：宇部市 / TOKIWAファンタジア推進協議会

キュレーター：山出淳也 (NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事)

『ファンタジアビュー・アニメーション in ときわ』キュレーター：土居伸彰 / 池 亜佐美

企画制作：NPO法人 BEPPU PROJECT

ファンタジアビュー・アニメーション in ときわ

■『ファンタジアビュー・アニメーション in ときわ』キュレーター

土居伸彰／Nobuaki Doi

池 亜佐美／Asami Ike

■ときわ公園正面入口ゲート

水江未来／Mirai Mizue

上平晃代／Teruyo Uehira

築地のはら／Nohara Tsukiji

池 亜佐美／Asami Ike

『WONDER』

『ホッキョクのゆりかご ～ver.シロクマ～』

『ホッキョクのゆりかご ～ver.オコジョ～』

『スワンボートに乗るねずみ』

『コアラのドリームライブ・オン・ストリート』

■地下通路

ドン・ハーツフェルト／Don Hertzfeldt

ピーター・ミラード／Peter Millard

ミヒャエル・フライ／Michael Frei

『人生の意味／The Meaning of Life』

『ピーターと6名のアルファベット神様／

Six God Alphabet Peter』 (TOKIWAファンタジア2021特別版)

『KIDS』

中崎 透『うべこべうべべ と あべこべあべべ』

中崎 透 / Tohru Nakazaki



1976年生まれ。美術家。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室 (中崎透+遠藤水城)」を設立し、運営に携わる。2011年より『プロジェクトFUKUSHIMA!』に参加、主に美術部門のディレクションを担当。

<https://tohru51.exblog.jp>

■作品名：『うべこべうべべ と あべこべあべべ』

■作品コンセプト (アーティストコメント)：

うべこべであべこべな、うべべとあべべの大冒険。
いつもなかよしのうべべとあべべが、
いつもの帰り道のつもりが不思議な世界に迷い込む。
謎の生き物や大きなお豆腐、
遠い国から飛んできた真っ赤な凧。
いったい何が起こるのだろうか。
突然始まった、うべべとあべべのワンダーアドベンチャーかもしれないし、
もしかしたらやっぱりいつもの帰り道なのかもしれない。

■作品プラン：

架空の物語「うべこべうべべ と あべこべあべべ」の登場キャラクター「うべべ」と「あべべ」がときき遊園地内に点在し、架空の物語を運びます。各シーンには2人の会話や市内の廃材から作られたオブジェなども設置します。

■作品シナリオ：

chapter_1_二人はいつもなかよし

うべこべうべべ と あべこべあべべ、
うべべとあべべはいつも一緒に、いつもなかよし。
うべべ 「おいおい、あべべ、今日はなにして遊ぼうか。」
あべべ 「じゃあじゃあ、いつものあれをやるよ。」
うべべ 「またいつものアレかよ！今日はちがうことしよう！」
あべべ 「じゃあ今日はちがうところに行こう！」
うべべ 「我らはまだ見ぬ世界を目指して旅立つのだ！！」
うべべとあべべはいつもとちよっとちがう大冒険に出かけるのでした。

chapter_2_長ぐつの木

晴れた日もあれば、くもりの日もある。
ぽつりぽつりと雨がふってきた。
あべべ 「おやや、ぽつりと雨がふってきたね。」
うべべ 「カサもカッパも持ってないね。」
あべべ 「長ぐつもないなあ。」

うべべ 「ぐちょぐちょするのはヤダなあ。」
あべべ 「あやや、長ぐつがたくさんなっている木があるよ！」
うべべ 「ほんとだ！これなら水たまりもへっちゃらだ！」
一本の木に、たわわに実るたくさんの長ぐつ。
うべべとあべべが長ぐつをはいて歩き出したら、
とたんに雨は上がり青空が広がりました。

chapter_3_あべこべあべべ

あべこべあべべは、あべこべなだけに、
たまにあべこべなことが起こります。
あべべ 「助けて——！あ、頭があべこべだあ！」
うべべ 「たいへんだ、よし、ぼくにまかせて！」
あべべ 「ど、どうするの?!」
うべべ 「もやそう！」
あべべ 「やめて——!!」
「バツシャ——ン」
火を見つけて、とおりにかかった消防士さんが水をかけてくれました。
「ブシュ——」
水をかぶった、うべべとあべべは空気のぬけた風船のように、
しぼんで小さくなってしまいました。

chapter_4_大きなイモムシ

小さくなったうべべとあべべは、
ただの草むらがジャングルのようになって、
こわい動物におそわれないようにキョロキョロしながらさまよいました。
あべべ 「わわわわ。」
うべべ 「うわあ、大きな怪物だあ！」
イモムシ 「やあ、こんにちは、ぼくはイモムシだよ。葉っぱが大好きだよ。」
あべべ 「イモムシがこんなに大きい！」
うべべ 「僕も葉っぱが大好きだからお友だちになろう!!」
うべべとあべべは、イモムシくんとなかよしになりました。

chapter_5_お山のとっぺん

イモムシくんとお友だちになったうべべとあべべは、
ジャングルのような草むらを歩いていたら、
大きな大きな鳥さんに会いました。
鳥 「あのお山のとっぺんまで連れてってあげるよ。」
うべべ・あべべ 「やった——!!」
うべべ 「うわあ、町があんなに小さく見えるよ。」
あべべ 「まるで人が羽アリのようだね。」
うべべ 「鳥さん、ありがとう！」
あべべ 「せーの。」
うべべ・あべべ 「やっほ——!!」
二人の大きな声は遠くまでひびきわたり、
悪い人さらいの人たちにも見つかってしまいました。

chapter_6_つかまったうべべとあべべ

山をおりてきたうべべとあべべ。
こわい顔の人さらいが二人の前にあらわれました。
人さらい 「ぐへへ、こんなところで子どもたちでなにをしてるんだい？」
あべべ 「まだ見ぬ世界を目指して旅をしてるんだい。」
うべべ 「だい！」
人さらい 「そいつはえらいことだ、おいしいお菓子があるからついておいでよ。」
うべべ・あべべ 「やった——！」
人さらい 「あまくて、あまじょっぱい、おいしいお菓子だよお。」
うべべ 「おいしいなあ。」
「ガッシャ——ン」
人さらい 「ぐへへ、これでおまえたちはもう出られないぞお。」
うべべとあべべは悪い人さらいにつかまってオりに閉じこめられてしまいました。

chapter_7_乗り物をさがせ

閉じこめられたうべべとあべべは、
うろろうろしていたらたくさんの乗り物を見つけました。
うべべ 「乗り物がたくさんあるぞ。」
あべべ 「これに乗ってここから逃げよう。」
うべべ 「どれに乗ってここから逃げようか。」
あべべ 「あ、この光ってる車は動きそうだなぞ。」
「ブルルルン」
うべべ・あべべ 「動いた！」
うべべとあべべは、光った車に乗りこみ走り出しました。

chapter_8_大脱出、乗り物こわれる

大きな車の音を聞いた人さらいは、
うべべとあべべを追いかけてきました。
人さらい 「まで ——— ！！」
あべべ 「まてないよ —— ！」
うべべ 「逃げろ～～！」
あべべ 「もっと飛ばさないと追いつかれるよ！」
うべべ 「よーし！」
「ガッシャ —— ン」
すごいスピードで走っていた乗り物は、
バラバラになってしまいました。

chapter_9_大きな風で飛べ

道に放り出されたうべべとあべべ。
必死に走るうべべとあべべ。
あべべ 「ハアハアハア」
うべべ 「ハアハア、もう走れないよお。」
あべべ 「あ！大きな真っ赤な風があるよ！」
うべべ 「あの真っ赤な風で飛んでいこう！」
「ビュー ——— ン」
あべべ 「飛んだ飛んだ。」
うべべ 「すごいよすごいよ。」
「ヒュルルルル」
糸が切れた風は見知らぬところに落ちてしまいました。

chapter_10_お牛のおじさん、ここはどこ？

人さらいから無事に逃げられたうべべとあべべ。
右も左も分からないうべべとあべべの前に、
お牛のおじさんが立っていました。
うべべ 「お牛のおじさん、お牛のおじさん、ここはどこなの？」
牛 「モ ——— 」
あべべ 「お牛のおじさん、私たちはどこから来て、どこへ行くの？」
牛 「モ ——— 」
うべべ 「そうか。」
あべべ 「え？」
牛 「モ ——— 」
うべべ 「あちにしばらく歩いたところに、世界のことをなんでも知ってる世界樹お婆さんがいるからなんでも聞いて
みるといいってさ。」
あべべ 「え ——— ？！」
うべべとあべべは世界樹お婆さんに会いに歩き始めました。

chapter_11_世界樹お婆さん

うべべとあべべがしばらく歩くと一本の木が見えてきました。
あべべ 「もしもし、もしもし。」
うべべ 「あなたがなんでも知ってる世界樹お婆さんですか？」
世界樹 「そうです、わたしがなんでも知ってる世界樹お婆さんです。」
あべべ 「ここはどこなんですか？」
世界樹 「ここです。」
うべべ 「ぼくたちはどっちへ向かえばいいですか？」
世界樹 「あっちです。」

あべべ 「そうかあっちか。」
うべべ 「アッチッチ、だね。」
あべべ 「だね。あははははは！」
うべべとあべべは笑いながらその先へと歩いていくのでした。

chapter_12_大きなおとうふ

歩いてきたうべべとあべべの前に白い大きな壁のようなものが現れました。
よく見たら大きな大きなおとうふでした。
あべべ 「大きな大きなおとうふだね。」
うべべ 「これじゃあ先にすすめないねえ。」
あべべ 「おなかもすいたし、食べてみようか。」
うべべ 「おとうふ、健康によくておいしくて、いいことだらけだね。」
あべべ 「おとうふは大豆でできているんだって。」
「もぐもぐもぐもぐ」
うべべ 「もう少しで向こう側まで行けそうだね、もぐもぐ。」
あべべ 「おとうふトンネルが開通だね、もぐもぐ。」
うべべ 「向こう側には何があるのかな。」
あべべ 「きっと世界の終わりがあるんだよ。」
うべべ・あべべ 「やった——！開通だ——！！」
もぐもぐ、もぐもぐ、がんばったうべべとあべべは、
壁のようなおとうふの、向こう側までたどりつきました。

chapter_13_セカイノオワリ

トンネルを抜けたうべべとあべべ。
さむい空の下で見た景色は二人の目にはどのようにうつったのでしょうか。
うべべ 「ようやくたどりついたね。」
あべべ 「大変だったね。」
うべべ 「でも、楽しかったね。」
あべべ 「ここが世界の終わりなのかな。」
うべべ 「そうだね、きっとここが世界の終わりなんだね。」
あべべ 「じゃあ、きっとここから始まるんだね。」
うべべ 「そうだね、きっとここからぼくらが始めるんだよ。」

chapter_14_ちよっとちがったいつもの道

見知ったいつもの道に帰ってきたうべべとあべべ。
暗くなってきたのでそろそろおうちに帰ろうか。
あべべ 「ああ、今日も楽しかったね。」
うべべ 「明日もきっと楽しいね。」
あべべ 「もうくたくただね。」
うべべ 「帰ってグダグダしたいよね。」
あべべ 「昨日とはちよっとちがったよね。」
うべべ 「明日はまたちよっとちがうよね。」
あべべ 「いつもの道なんだけどね。」
うべべ 「ちよっとちがったいつもの道だったね。」
うべべ・あべべ 「また明日！！」

中山晃子 / Akiko Nakayama



画家。液体から固体までさまざまな材料を相互に反応させて絵を描く『Alive Painting』というパフォーマンスをおこなう。あらゆる現象や現れる色彩を、生物や関係性のメタファーとして作品の中に生き生きと描く。さまざまなメディウムや色彩が渾然となり変化していく作品は、即興的な詩のようでもある。近年では『MUTEK Montreal』などにも出演。

<http://akiko.co.jp/akikoweb/top.html>

photo by Haruka Akagi

■作品タイトル：『海の見る夢』

■作品コンセプト (アーティストコメント)：

「描く」Drawingと「導き入れる」というDrawing。
この二つの意味を重ねながら、今回の作品「海の見る夢」を描きました。

海はあらゆる情報を運びながら、大陸から大陸へ流れゆきます。
絵の中の流動を未知の海流や河川、に見立てて観察してみると、
乾いた陸地の際の色彩を少しずつ溶かしながら流れるさまや、
泡によって海底があらわになったり、流れの早いところ、遅いところ、あらゆる現象が光景の形を決めていることがわかります。

色彩同士の境界がゆるやかに溶け合いながら、混ざり合って新しい色彩が誕生し、
景色の色と、ある特別な記憶が結びついてふと懐かしい思い出が蘇るように、
流れの中にも、結びついては解けるまぼろしがあるのではないか。

山口県宇部市、そしてときわ公園は海と陸と深い関係性のなかで景色が変化してきた土地、夜の光の中で海の記憶に思いを馳せ、記憶を導き入れるようなドローイングになればと思っています。

■作品プラン：

宇部の景色から着想を経て『Alive Painting』シリーズの新作を公開いたします。

■中山晃子・ライブパフォーマンス：

『TOKIWAファンタジア2021』参加アーティストの中山晃子によるパフォーマンス『Alive Painting 海の見る夢』を、ときわ遊園地内の体験学習館モンスターにて開催いたします。

=====

日時：2021年11月28日(日) 17:20～17:50 (受付時間16:40～17:10)

集合場所：ときわ公園正面入口前 (〒755-0003 山口県宇部市則貞3丁目4-1)

※受付時間内に集合場所までお越しください

※車でお越しの方は、有料駐車場(<https://www.tokiwapark.jp/parking>)をご利用ください

料金：無料 / 定員：30名程度

MES



新井 健と谷川 果菜絵が2015年に結成したアーティスト・ユニット。レーザーや仮設資材を多用し、クラブカルチャーと現代美術の接触を試みるなど、マージナルな位置から社会を観測する作品を展開する。近年の活動に『DISTANCE OF RESISTANCE / 抵抗の距離』（個展）、『Reborn Art Festival 2021夏』『Media Ambition Tokyo2021』など。
photo by Ayaka Endo

■作品タイトル：『神話装置「巨人の岩」 / MYTHS DEVICE “TITAN'S ROCK”』

■作品コンセプト (アーティストコメント)：

概要：

蓄光塗装された巨大スクリーンにレーザーを照射し、燐光による残像でアニメーションを描くインスタレーション。これを神話を語る装置に見立て、宇部に伝わる民間神話のひとつおよび景勝地「吉部の大岩郷」を題材とし、絵本のように文と絵で綴る作品である。構成前半は「吉部の大岩郷」に基づいた「巨人」が岩を落としたことで大岩郷ができあがる物語、後半は大岩郷の場所にく置き去りにされた「岩」へ焦点を当てた物語として編曲した。自然現象が（半）擬人化された物語から、徐々に自然を自然として描写する物語へ変化し、また擬人化された物語世界へとループしていく。映像中に登場させるイメージや言葉は、宇部の街や大岩郷を探索し、宇部の歴史をたどる中で発見したものを採集している。

制作記（簡易版）：

じっさいに訪れた大岩郷（あちら＝美祢市の「万倉の大岩郷」、こちら＝宇部市の「吉部の大岩郷」）は、六千年以上の時をへて露出した岩々がテトラポットそっくりに頑強に積み重なる。周囲には森が広がるが、なぜか岩海には木が一本も生えることはなく、遠くから見るとパツクリ開いてしまった傷口あるいはモーゼが割った海のように、岩海は岩海として存在していた。近寄ると、岩肌や隙間に見たことのない形の蜘蛛の巣や蔦、苔がみられた。岩はざらざらとして固く、角ばったものは少ない。大股で隙間に足を取られないように渡り歩いていく。岩には亀裂のあるものも多く、風化が進んでいることも認められたが、生きているうちに一つの岩が二つの岩になる姿さえ見られないのだろうと悠久の時を実感した。ただの自然といえばそうなのだが、この場所を見て、人々が神話という方法をとおしこの環境を言い伝え、保護したいとのぞむことは不思議ではなかった。（現在は天然記念物に指定され、法律で保護されている。）渡っている時、頭をよぎった『君が代』は、小さな石が時間を経て一つの岩となり苔が生えるまでのこと（のように天皇の治世をたたえる歌）をうたっている。かつては誕生日ソングの様相だったようだが、現在では日本の全体主義の永続を願う歌にさえ思える。とっていると以下の返歌が思い浮かんだ。

さざれいし いわおとなりし くのにいし あはれまぼろし すなのふくまで

閑話休題。制作の過程では、原作へいくつかの疑問を持った。

原作は非常に短い。続きや前段があったのではないだろうか。

「巨人」が何ものであり、どこから来たのか

岩をせおってどこへ行くはずだったのか、何をするためだったのか。

なぜ岩を置いていってしまったのか。

ひげを蓄えた半裸の「大男」として挿絵が描かれているが、本当にこのような姿なのだろうか。

<巨人>は1人だったのだろうかーこれほどの岩を転がしたのにー。

科学的に正しいとされる大岩郷の生成についてはそれとなく理解できたが、伝承にまつわる情報はほとんど得られなかった。それでも、民間神話としての<巨人>の物語としてみたとき、「吉部の大岩郷」に登場する<巨人>は、他地域の自然信仰にまつわる民間神話における<巨人>の行動の不可解さや滑稽さと類似している部分が多く、<巨人>の物語として普遍的であることは掴めた。こうした疑問と調査を重ねながら、宇部特有でありながらも普遍的な物語を、宇部の冬の強風やイルミネーションの明るさ、象徴性、そして<こども>にとどける条件を介しながら制作した。

「吉部の大岩郷」は、吉部村が楠町となり、宇部市と合併したことで宇部の民間神話となった。伝承を引き継ぎながらも、その伝承が不確かであることも頭の片隅に置きながら、既存の物語から失われているかもしれない視点や、現在の視点ではアップデートされてもいい価値観を書き加えて伝えていってみる。この解釈すらもまた古いものとなって、伝わっていくかもしれない。そしてその物語を、ニューメディアをとおして描く（我々にとってレーザーは十分アナログな存在ではあるが）。民間神話を、光る幻のように現してみる。

■作品プラン：

宇部の民話『大岩郷の巨人伝説』をモチーフとしたレーザーアニメーションを制作します。高さ9mある壁に、巨人の顔のシルエットをした蓄光テープが取り付けられています。巨人の顔には伝説に書かれている岩が落ちる描写や、全国各地の巨人にまつわる物語から着想したアニメーションを展開します。

時間：約8分

原作：『「吉部の大岩郷」楠町発行「わが町の歴史アルバム」大岩郷生成・巨人伝説より』

協力：株式会社中川ケミカル

■シナリオ：

おくまぐらのあたりに
きょじんたちがいました

あのとつとうよりも あの えんとつ よりも
おおきな きょじんです

あるひ てんびんぼうにぶらさげた
おおきなわらぶくるに
これまたおおきないわを たくさんつめて
かついでいこうとしました

あるきだしたとたん
やまに あしをとられて よるけると
わらぶくるが ゆらゆらゆれて
ごろごろ ごろごろ ごろごろ ごろごろ
いわがおっこちてしまいました

ころがるいわは あちらへ こちらへ
やまのしゃめんに つみかさなって
ふたつのおおいわごと になりました

いわたちは なんねんもなんねんも

ひにあたり あめにうたれ かげにふかれました
やがて つたがはえ こけもはえ
いわかげには くもが すみはじめました

いわたちは なんねんもなんねんも
ひにあたり あめにうたれ かげにふかれました
やがて ひびわれて
ひとつのいわは ふたつのいわになりました

いわたちは さらに われて わかれて ふえつづけ
とほうもないじかんをこえても いわは いわのすがたのまま
きょじんたちに はこばれるのを まっているのです

穴井佑樹『TOKIWA—移ろいゆく無数の存在を内包したもの—』

穴井佑樹/Yuki Anai



1987年生まれ。慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修了。自然の持つメディアとしての力を表現した作品づくりをおこなう。主な作品として、雨をテーマにした作品『in the rain』(2017)や、横浜がかつて海だった頃の景色を標榜する『A Seashore』(2015)、星と人々の記憶をテーマにした『Stardust Memories』(2018)などがある。

<https://sorauta.net>

■作品名：『TOKIWA -移ろいゆく無数の存在を内包したもの-』

■作品コンセプト (アーティストコメント)：

本作品は、脈々と流れる“ときわ”の記憶を、
海辺(宇部の語源の一説ともされる)をモチーフに表現した作品。

この地を行き交う人々の存在が波を生じさせ、
ひとときの目の前の景色は変わりゆく。

穏やかな時もあれば、波が荒れる時もあり、
さまざまうねりを伴いながら、
その土地で刻まれる時が、織り重なっていく。

無数の存在やそれが起こすあらゆる変化を刻々と確かに内包しながらも、
眼前には、ただありのままの“ときわ”が佇んでいる。

どんな荒波が来ようともやがては凧に帰す海のように。

■作品プラン：

宇部の語源となったとされる「海辺」に着目した作品を制作します。ときわ遊園地内芝生エリアに、LEDとセンサーを取り付けたプレートが点在し、来場者の動きによってセンサーが反応し、プレートが光ります。照らされたプレートが波しぶきや波紋のように、光の海が広がってゆきます。

指輪ホテル『モモイロペリカンフラクタル』

指輪ホテル/YUBIWA Hotel



羊屋白玉が劇作と演出、ときどき俳優をつとめるシアターコレクティブ。2001年ニューヨーク同時多発テロのさなか、ニューヨークと東京をブロードバンドで繋いだ同時上演以降、北米、ヨーロッパ、南米などでのツアーが続く。国内では札幌国際芸術祭や瀬戸内国際芸術祭など、都市や自然の中で、その土地の人たちと協働し、サイトスペシフィックな作品を手がけ、人や物や土地の、目に見えない境界などに関するテーマの取組を演劇を通して生成している。

■作品タイトル：『モモイロペリカンフラクタル』

■作品コンセプト (アーティストコメント)：

こちら、ときわ公園に初めて来た時、ペリカン島のペリカンたちが印象的でした。1967年以来、今でもモモイロペリカンのお世話をしているらっしゃる、白州道德さんにインタビューをする機会をいただき、このときわ公園を訪れる宇部のみなさんに愛されて続けているモモイロペリカンとの交流についてお話を聞きました。「モモイロペリカンフラクタル」は、当時、この遊園地にも、モモイロペリカンがそこかしこに降り立ち、お散歩したり、こどもたちと遊んでいた様子を思い浮かべ、そこかしこに漂うモモイロペリカンの気配や記憶を散りばめ再現した作品です。

中でも、白州さんによって、1985年日本初の人口ふ化で誕生した、インドのカルカットにルーツをもつ、そのふるさとの名前にちなんで「カッタ」と命名されたカッタくんは人懐っこく。カッタくんと子供たちとの友情のエピソードは、宇部市の方達によって1995年に映画化されました。

映画化が決まった頃、湾岸戦争が勃発していました。映画の原案を担当した白州さんは、ペルシャ湾に大量の原油が海に流出し、鳥たちが油まみれになったことや、黒海の上空はモモイロペリカンの渡ってゆく通り道でしたので、ミサイルに撃たれたモモイロペリカンが数多くいたことに胸を痛めておりました。そして、この映画には、動物が生きて行ける環境について、そして世界平和への祈りを込めたのです。

カッタくんを知らないこどもたちにも、カッタくんに出会ったことがある大人世代のかたたちにも、かわいらしい夢があふれますように。

鳥や、魚や、花や、緑があふれるときわ公園に、トレードマークの赤い蝶ネクタイのカッタくんが、舞い降りました。

■作品プラン：

日本初の人工ふ化によるモモイロペリカン「カッタくん」をモチーフとした作品を制作します。人間好きで愛嬌たっぷりだったカッタ君にまつわる思い出や、当時飼育員の奥様が作った蝶ネクタイのエピソードから着想した映像・音楽・オブジェなどで構成します。

また、会期中に指輪ホテルによる、公演を予定しております。(詳細は後日発表)

戯曲・演出：羊屋白玉 | 音楽：SKANK/スカンク
美術：サカタアキコ | 映像：高橋啓祐 | 照明：糸山義則

【『TOKIWAファンタジア2021』に関するお問い合わせ】

宇部市 観光・グローバル推進課

TEL : 0836-34-8353 E-mail : kanko@city.ube.yamaguchi.jp

【広報・作品内容に関するお問い合わせ】

NPO法人 BEPPU PROJECT 担当：坂井／種木

〒874-0933 大分県別府市野口元町2-35 菅建材ビル2階

TEL : 0977-22-3560 Fax : 0977-75-7012 E-mail : info@beppuproject.com